

# 社会科 収集・分類から社会的事象をつかむための新聞活用

指定校 2 年次 軽井沢町立軽井沢中学校 佐藤 光重

## (1) 本校の新聞活用 (NIE) の現状

本校生徒の新聞にかかわる実態としては、家庭での新聞購読率は約 7 割程度であり、毎日新聞に目を通している生徒は学級に数名程度と考えられる。多くは、「たまにテレビ欄やスポーツ欄を見る」程度であり、新聞を通して何らかの情報を得るという体験を日常的にしている生徒は非常に少なかった。そのため、「新聞の読み方が分からない」「記事のレイアウトが分かっていない」「漢字の読み書きが苦手」「少し難しい言葉に直面したとき自ら考えることができない」といった様々な課題を抱えていた。

また、近年の一般的な傾向なのかもしれないが、家庭での新聞購読率よりもインターネット開通率の方がはるかに高く、自動的に表示されるフラッシュニュースやテレビのニュースなどから世の中の動きをつかむことが多いようである。

そのような現状の中で、昨年度から NIE 指定校にさせていただき、生徒が新聞に触れ、記事を目にする機会は家庭よりもむしろ学校の方にあると考え、社会科としていかに新聞を活用できるか研究を進めてきた。

## (2) 実践のねらい (育てたい力)

本校生徒は、国際都市である軽井沢の特色として日常的に世界中の様々な地域から訪れる人々と関わる機会が多く、文化・人種・言語・宗教といった分野で国際的な視点を持つことができている。しかし、その一方で十分な知識や興味関心に欠ける部分もみられる。そのため、昨年度から NIE 指定校にさせていただいたことを良い機会と捉え、「新聞」という身近な情報から様々な社会的事象への興味関心および理解を深め、他者の意見を聞くことを通して、自己の思考・判断力を高めることをねらいとした。

## (3) 研究の概要

### ①新聞の提供状況

学校内で生徒が新聞記事を見る場所として、生徒昇降口付近に新聞記事が貼りだされている。ここでは、本校が支援・交流を行っている岩手県大槌町に関連する記事や軽井沢町に関わる記事、また、本校に関する記事が展示されている。毎日、登校すると全生徒が通る場所であり、新聞に触れる最も身近な場所である。

また、気になったニュースを調べる際に「図書館の新聞コーナー」および「社会科研究室の資料コーナー」の 2 か所が提供されている。ここでは、生徒が新聞を手にとってみるができる場所として設置されており、信毎・朝日・産経・読売・日経など各社の新聞が置かれている。



【生徒昇降口掲示板】

【エントランス掲示版】



【図書館新聞コーナー】



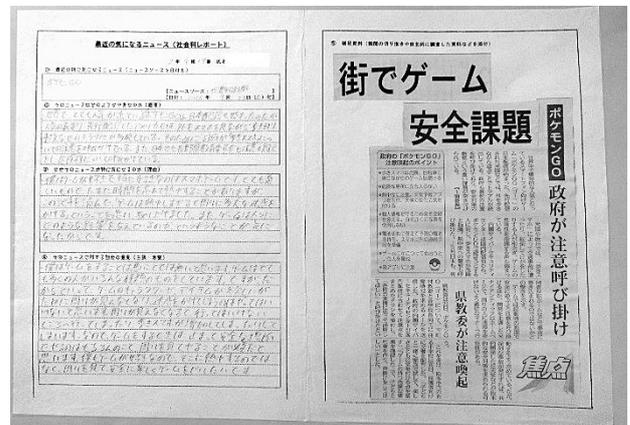
【ニュースレポート】

## ②生徒の取り組み

新聞にかかわる本校での生徒の取り組みとして、本校社会科では以下の3点を軸に指導を行ってきた。

### (a) ニュースレポート

長期休業中の課題として行っており、興味を持った新聞記事の中から1点選び、自身の感想や考えなどを書きこんだものを提出するといった課題を課している。これは、秋の文化祭で教室展示の一つとなり評価の対象にもなっている。



### (b) 時事問題

昨年度から定期テストの際に導入したものであり、社会のテストにおいて毎回5問程度(10点分)出題し、テスト前には現代社会の抱える問題などについて生徒間で話し合うきっかけとなっている。また、動機としては「テストに出題される」という観点ではあるが、自ら新聞記事を探す姿や家族との食卓の場で最近のニュースについて話す場面が増えたという効果があった。

### (c) 新聞作成

年間、1・2回程度ではあるが、「宿泊学習」「登山」「修学旅行」など各学年の行事前後の学習として新聞の作成を行っている。内容は、行事後のまとめ学習に関するものが多いが、ここではレイアウトやリード文、写真の配置や見出しの言葉選びなど新聞を作る人がどのような工夫や苦勞をしているのかを体験的に学習することを目的に行っている。

### ③研究授業

#### 1. 単元名 「現代の民主政治」

#### 2. 単元設定の理由

3年3組の生徒たちは、男子を中心に比較的社会的事象への興味・関心が高く、学習問題や学習課題に対して、前向きな姿勢で意欲的に取り組もうとする姿が多く見られる。反面、教科書の中の社会的事象を、遠い地域や過去の歴史、教科書の中での出来事として考え、身近に捉えることができず、社会科に興味・関心を持っていない生徒の姿も見られる。特に公民的分野では、現在の社会で自分たちの生活と深く関わっている政治について、政治を難しくして遠い問題として捉え、苦手意識を持つ生徒も多い。

そのような生徒たちにとって、現在の社会で起きている様々な情報をリアルタイムで伝える新聞は、今、自分たちが生活している社会を映し出す鏡であり。教科書の内容と自分たちの日常生活と結びつけ、より身近に社会的事象を捉えながら社会科の学習を深めていくうえで、非常に有効な教材であるということが昨年度の実践から見えてきた。

昨年度は、日本地理の導入の場面で、どの地域で、どのような出来事が起きているのか、新聞記事を探して分類・整理する活動を通して、各地方の地域的特色を大きく捉えると同時に、社会的事象と日常生活との結びつきに気づき、社会的事象をより身近に捉えることができるようになることを願い、実証授業を行った。

新聞記事だけで地域的特色を捉えさせるのは難しいという課題は残ったが、生徒たちは意欲的に必要な新聞記事を探して分類・整理し、それらの活動を通して社会事象への興味関心を高め、社会事象を身近に捉えられるようになったことは、その後の日本地理の学習を進めていくうえで大いに役に立った。

そこで本年度は、公民的分野の政治の導入場面で、昨年度と同様に新聞記事を基に政治に関わる社会的事象をテーマ別に分類・整理する活動を通して、現代の政治の仕組みや課題を大きく捉え、政治を難しくして遠い存在ではなく、自分たちの生活と深く関わる、より身近なものとして捉えられるようになることを願い、本単元を設定した。

#### 3. 単元展開

学習問題	学習課題	学習活動	評価	時
新聞から、政治と自分たちとの関わりを確認しよう。	個人で政治（国政）の課題だと思う記事を探し、収集しよう。	・新聞から政治（国政）の課題だと思った記事を探し、収集する。	・国政と地方自治の違いについて理解できる。 ・自ら意欲的に、新聞から資料を収集している。 ・収集した資料を自分の考えでいくつかのテーマに分類できる。	1
	収集した政治の課題に関する記事を、グループでテーマごとに分類しよう。	・各自で集めた政治の課題だと思った記事を、グループになりテーマごとに分類する。	・仲間と協力しながら、収集した資料をテーマ毎に分類できる。	2
	テーマに関する記事を基に政治の現状や課題を確認し、自分の考えをまとめよう。	・収集した記事の中から、グループで興味のあるテーマを選び、政治の現状や課題について自分の考えをまとめる。	・お互いに情報交換をしながら、興味関心のある政治の課題に関するテーマを選択できる。 ・選択したテーマに関連する記事を基に政治の現状や課題について自分の考えを持てる。	3

	グループで自分たちのテーマに関する政治の現状や課題をまとめよう。	・記事や前時にまとめた学習カードを基に、グループで話し合いながらテーマに関連する現状や課題をまとめる。	・複数の記事を比較するなど、様々な角度から情報を読み取っている。 ・資料や仲間との話し合いを通して多面的・多角的な考えを持てる。	4 本時
	まとめたことを発表し合い 政治の現状や課題を確認しよう。	・グループごとにまとめた内容を発表し合い、政治の課題に関する様々なテーマについて知識を深め、関心を高める。	・政治の抱えるいくつかの課題について理解できる。 ・政治と自分たちの生活との関わりに関心を持てる。 ・政治に対して国民の一員として自分の考えが持てる。	5

#### 4 本時案

##### (1) 本時の主眼

グループごとに分担した政治の課題に関するテーマについて記事を収集した生徒たちが、テーマに関する記事を整理しまとめる場面で、新聞記事を基に政治の現状や課題について話し合い、考える活動を通して、自分たちの生活と政治との関係に気づき、政治への興味関心を高めることができる。

##### (2) 本時の位置

全5時間中の第4時

##### (3) 指導上の留意点

- ・自分の考えの根拠となる新聞記事を明確にして考えさせるようにする。
- ・グループの中での話し合いや、他グループの活動を参考に促すよう促し、生徒同士の話し合う活動を大切にする。

##### (4) 展開

段階	時間	学習活動	予想される生徒の反応	教師の指導 ※評価	資料
導 入	5	・前時までの学習内容を振り返り、本時の学習問題を確認する。	・自分たちの班は〇〇（テーマ）についてまとめるんだっとな。  ・〇〇について私はこんな課題があると思う。	・事前に、担当するテーマについて、記事を基に自分の考えが持てたか確認しておく。	・前時に探した新聞記事 ・前時の学習カード (個人追究)
		<b>学習問題</b> 新聞記事から政治と自分たちとの関わりを確認しよう。			
展 開	10	・自分たちのテーマについて、各自で調べたことを話し合いながら、現状と課題について自	・〇〇に関して私はこんな点が問題だと思う。 ・自分たちにも関係がある問題だ。	・予想ではなく、根拠となった記事を基に現状や課題について各自がまとめたこと	・前時の学習カード (個人追究)
		<b>学習課題</b> グループでテーマに関する政治の課題をまとめてみよう。			

	分たちの考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマが同じでも違った問題点もあるんだ。</li> <li>・なぜこんな問題が起こっているのだろう？</li> <li>・どうしていったらいいんだろう？</li> </ul>	<p>を発表し合うよう伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わからないことや疑問点が出たら、班の中で話し合ったり、教師に質問したりするよう伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習カード (共同追究)</li> </ul>
30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班、模造紙に記事を貼り、自分たちのテーマの現状や課題についてわかりやすくまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つのテーマでも様々な内容がある。</li> <li>・この内容を伝えよう。</li> <li>・他の班はどんなふうにしたのかな？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わからないことや迷っている事があったら他のグループの方法も参考にしよう伝える。</li> </ul> <p>※仲間と協力しながらテーマに関する現状や課題を班でまとめることができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習カード</li> <li>・掲示用模造紙</li> <li>・のり</li> <li>・マジック</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返り、わかったことや感想をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちのテーマに関しては〇〇が起きていたり、問題になったりしていることがわかった。</li> <li>・テーマに関していろいろな記事があった。</li> <li>・みんなで協力しながらまとめられてよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動を通して分かった事や気付いたことについて発表させる。</li> </ul> <p>※本時の学習を振り返ることができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習カード</li> </ul>

【授業の様子】



#### (4) 研究のまとめ

昨年度から NIE 指定校にいただいたことで、学校全体として生徒が「新聞」という情報媒体に触れる機会が増え、生徒の思考の流れの中に社会の様々な情報を得るための手段としての新聞が位置づけられてきた。その結果、これまであまり手に取ることのなかった新聞に対する考えが少しずつ変化し、授業などの場面で扱うことができるようになってきた。本校生徒は「読む」→「理解する」→「考える」→「表現する」という学習の流れの中でも「表現する」については得意である生徒が多いため、研究授業でも活発な議論が交わされていた。新聞を教材化して扱ったことで、普段の授業で使っている教科書や資料集などとは違い、今起きている社会的事象が自分たちの生活と深く結びついていることに気づき、公民的分野に関わって「現代社会の中での私たち」というものを考えるきっかけになった。

#### (5) 残された課題

##### (a) 「読む」習慣

本校生徒は、新聞を購読していない家庭も多く、家庭で新聞を読む習慣がない生徒も多い。そのため、来年度以降も学校においてまずは「読む」場面を設定していくことが必要であると考えられる。社会科の授業の中で「読む」場面を設定していきたいが、限られた授業時数の中では難しい面もある。朝の学活前の時間に本校では読書の時間を 10 分ほど設けているが、その時間を活用して新聞を読む等、生徒たちが新聞に触れられる場面を設定していけると良い。

##### (b) 批判的に「読む」力

今年度は研究授業の際、新聞記事の収集・分類によって政治の課題をつかもうと授業を構成した。生徒たちは新聞の中から様々な政治の課題を見つけ、熱心に記事に目を通したり、話し合ったりする姿が見られた。その後の授業でも、自分（たち）が調べた政治課題に関する内容を学習する際には意欲的に発言したり追究したりする姿が見られ、政治への興味関心を高め身近に捉えさせる上で、新聞を活用することは非常に有効であると感じた。反面、昨年度と同様、限られた期間の記事では全ての情報を得られないことも多々あり、生徒に誤ったイメージを持たせかねないという課題も残された。そのため、今後は教科書や資料集も含め「情報を鵜呑みにしない」メディアリテラシーの観点も教科として大切にしなければならないと感じた。どの情報も完璧なものではなく、微妙な表現の差異や作り手の思いなどが記事に現れるので、そこから生徒一人ひとりが「何を」「どう」考えるかという点を大事に指導していく必要性を感じた。

##### (c) 今後の方向性

本年度、指定校 2 年目ということで、昨年度の反省を基に多くの成果を得ることができた。しかしながら多くの課題も残されているので、2 年間の成果や課題を踏まえ、社会科としてさらに新聞の有効な教材化を継続して進めていきたい。また、社会科のみならず学校全体としても様々な教科や場面での有効な新聞の教材化の方向性を探っていきたいと考えている。